

これまで応募した壁新聞

全国
フェスティバルに
初参加!

2016年

小学2年生



「森づくり」



会場の早稲田大学には全国からたくさんのクラブが集まり、とてもワクワクしました。



作品名「森の大ガエル」
撮影した写真が第3回「みえの森フォトコンテスト」で最優秀賞になりました。



大台町での植樹イベントに参加。森のはたらきを知って、元気な森にするためにどんどん木を使おう!

2017年

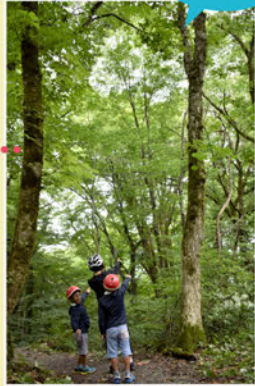
小学3年生



「水のゆくえ」



水は自然豊かな森の奥地から、長い年数をかけて地下水(天然水)となり、川を流れて海につながっていくことがわかった!



森は真夏でもひんやりして気持ちよく、川の水を触ったら氷水のように冷たかったです。山道を歩いた時、地面はふわふわして、やわらかな歩き心地でした。

2018年

小学4年生

「おいしさの秘密は森にあった」 ~おいしさの秘密を探せ~



前年に調べた天然水ができる仕組みから、また一步踏み込んだテーマ。豊かな森は豊かな海を育み、自分たちが食べる魚や肉、農産物など、おいしいものが育つことにつながるのでは? 過去の壁新聞はこちら



鳥羽市答志島奈佐の浜でごみの片づけをしました。流木などが多く、生活ごみもありました。ごみの量が多く、全部を片付けることはできませんでした。

三重県環境学習情報センター みんなでつくった! 壁新聞 [検索](http://www.eco-mie.com/kodomo/ECKabeshinbun.html)
<http://www.eco-mie.com/kodomo/ECKabeshinbun.html>

2019年

小学5年生

「助けて! 魚たちのために」

次ページで
壁新聞を
ご紹介!

壁新聞の仲間たち!

壁新聞づくりにチャレンジしようと思ったのは、尚崇くんと英崇くんが小学2年生の時。「こどもエコクラブでこんなことをやってるけど、やってみる?」と父の朋央さんが勧めたことがきっかけでした。

朋央さん「小さい頃は壁新聞を書くのは大変な作業だったと思います。なおが熱を出した日もあったが、ひでが代わりに書いたりとふたりで助けあってよく頑張っていました。」

壁新聞には書きたいことがたくさんあって、まとめることに特に苦労したと

いいです。そして初めて応募した壁新聞は、その年度の三重県代表に選ばれ、全国フェスティバルに参加しました。

尚崇くん「壁新聞が三重県の代表に選ばれて、活動が認められてうれしかった。発表に向けて頑張って練習をして、本番では緊張したけど、達成感がありました。」

英崇くん「初めて全国フェスティバルに参加した時、色々なクラブの発表を聞いて交流をして、新しい発見ができたのでまた参加したい。」

全国フェスティバルに参加したことは、ふたりにとってその後のエコ活動や壁新聞づくりを続けていきたいという

意欲につながる経験になりました。

これまでの壁新聞を振り返ると、ふたりの成長とともに活動にも発展的な変化が見られ、毎年の活動テーマにはつながりがあることがわかります。参加したイベントや家族で出かけた先で実際に見たものをテーマにしてみました。壁新聞の取材のために出かけるのではなく、楽しそうだから〇〇に行ってみよう!という気楽さも長く続けられる理由かもしれません。尚崇くんと英崇くんの関心がそれぞれに違うときも、一人が行くならもう一人もついていくなど、いつもふたりで一緒に経験することが多いようです。

「津市環境功労者」として表彰!

2019年11月、「つ・環境フェスタ」で「津市環境功労者」として表彰されました。日頃の環境保全や環境学習に取り組む活動が評価されたのです。ステージでは、活動をまとめた3年分の壁新聞を紹介するなど、たくさんの来場者を前に活動発表をしました。

「発表ではクイズを取り入れてたくさんの人に伝わりやすいように工夫しました。みんなが手を挙げてクイズに参加してくれてうれしかったです。」

